

東京の教育

復刊第十一号

東京都教師会発行

(事務局) 横浜市区築区茅ヶ崎南四ノ十四ノ一ノ三一〇

日本教師会第五十八回教育研究大会

開催される

佐藤 健 二

八月四日(土)五日(日)の両日、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で標記大会が開催された。連日の猛暑で参加者の減少が危惧されたが、大阪、京都、岐阜、茨城、兵庫の各教師会からの参加、また本会会員も十名参加して、総勢二十八名の参加を得た。また昨年以來賓として御出席の全国教育関係神職協議会から、今年には会長の河合鎮徳氏が遠路鳥取から出席された。



勝岡寛次先生の講演

今年、明治百五十年という節目の年に当たるということ、
「近代教育の再検討—何を求めて、何を失ったか—」を主題として、
記念講演には明星大学戦後教育研究センターが

ら勝岡寛次先生をお招きした。

勝岡氏は、「日本の近現代教育と天皇—今上天皇の譲位を来年に控えて—」と題して話をされた。まず現在学校教育で天皇を取り上げること自体が極めて少ないということ、新たに教科となった小学校道徳の教科書8社について「天皇・神道関連教材調査」をしたその結果を報告、8社の道徳教科書に載る全一四九七話中、何と天皇関連教材はわずかに二話、神道関連教材は六話にすぎない。天皇や神社や祭りといった我が国の在り方や伝統・風習などについて、歴史の教科書ではなく、ある意味では自由に語れる「道徳」の教科書ではほとんど無視されているということ、我が国の道徳の基礎づけとして皇室や神道などは関係ないということ、これを露骨に示している。このことが皇室を尊び、初詣や地域の祭り等に熱心な一般の国民意識からいかに隔たっているか、道徳の教科書を作成する教育関係者がことさらにそれらを排除しようとしているのではないか。そんな歪んだ精神の実態が浮き彫りに成り、「道徳」が教科になったとは言え、教える教師の側に、果たして日本人としての道徳観が確立されているのか、その道徳観がないままに、本当に日本人として相応しい道徳教育がなされるのか不安を覚えた。

また来年の御譲位に関しては、江戸時代の光格天皇以来二百年ぶりということ、その意義について話をされた。特に光格天皇から再び天皇号が使用されるようになったことや、御署名に「大日本国天皇」といった称号をお使いになったということ、「御所千度参り」という、庶民の困窮救済を、幕府にではなく朝廷に求める熱狂的な行動などを踏まえ、天皇自らが我が国の歴史を貫く皇統への御自覚が高まっていたことなどを指摘され、最後に今回上天皇が自らの「お言葉」で国民に向けて直接譲位の御意思をお示しになったその意義を「宮中祭祀を守るためである」と結論づけられた。

記念講演会の後、三〇分ほど先生にも残って頂き、講演を踏まえた討議をした。このことにより、さらに理解を深めることができた。実践発表は、まず小学校の部として新潟県三条市森町小学校の小林義典先生が「祖国を貴ぶ教育」と題して、プロジェクトで映像を巧みに映し出しながら話をされた。例えば神話でも、絵本に描かれた伊邪那岐、伊邪那美の話などを、絵を見せながら話をすると、子供達は皆目を輝かせ、夢中になって話を聞く。教材として、日本の神話がいかに魅力あるものであるかを話された。また日本にある世界一ということ、縄文土器を紹介したり、世界最古の小説として『源氏物語』を紹介したりするなど、我が国には「祖国を貴ぶ教育」をするための材料がいくつでもあることを、

説得力ある映像と共に話をされた。

実践発表の②は中学の部で、新潟市立関屋中学校の松井潔先生の発表であった。テーマは「先人に学ぶ」。松井先生の専門は理科であり、今は学年主任をしているのでなかなか道徳の授業などはできない。そこで年休で休みを取る教員がいると出来るだけ自分が出て道徳の授業をするという。

発表では杉原千畝と昭和天皇と国歌「君が代」を取り上げたときの授業の様子を紹介された。予め生徒にはワークシートを渡しておく、その授業で考えたことや感想を書かせるようにした。例えば、杉原千畝の場合は「命のビザ」を読ませて、①杉原氏は国外に出るべきか、ビザを発給すべきか。



若井勲夫先生の講評

②本国（日本）の指示に背いてビザを発給したら、杉原氏はどうなるだろう。③日本に無事たどり着いたとき待っていたのは何か、と言った質問

に答え、最後に感想を書かせる。そのプロセスは、個人の考えから班での話し合いへ、さらに全体での意見交換へと話の輪を広げながら、自分の考えを他者の目を通して再評価するといったものである。特に話し合い活動は、わずかに一時間の授業であっても、その時間の中で生徒の「思考が生き物のように成長進化する」様子が伺われると言う。先生の周到な準備があつてこそその成果であろうと思われた。

その後、会長の若井先生から、その日の二人の発表について講評があり、小林先生の映像を巧みに用い、子供達を授業に引き込んでいく手法、また松井先生のワークシートを上手く使い、生徒の意見を導き出していく方法を高く評価された。

五時半からは場所を近くの居酒屋に移して、懇親会を行った。懇親会には来賓の河合先生を初め二十名の出席があり、普段話をする機会のない地方の先生方とも久し振りに話ができ、有意義な時間を過ごさることができた。二日目は九時から、実践発表③高校の部として、現在埼玉のフリースクールに勤務されている松村太樹先生による「人物を中心とした高校日本史Bの授業実践報告」がなされた。先生が以前島根県出雲市の私立高等学校に勤務されていた時の授業の様子を発表されたのであるが、クラスは二十二名、ほとんどの生徒は日本史に関心がなく、日本史での受験希望者は最初是一名しかいなかった。授業コン

セプトとして「我が国に真に貢献した日本人の歴史とその精神の継承」ということを掲げ、ほとんど日本史に興味がないという生徒達をなんとかか日本史が好きになるようにしたいと考えた。

先生の指導で驚かされたのは、生徒が提出したノートに書いてきた質問や疑問、相談に、実に丁寧に時間を掛けて返事を書いていることである。時には原稿用紙で十枚分にもなるような長文の返事を書いたということ、そのノートを会場で示されていた。

その丹念で熱意の籠もった授業は当然生徒にも伝わり、最初一人しか希望していなかった日本史での受験が、八名に増加した。日本史が好きになったのである。また一人の生徒は、大学で心理学を勉強したいと言っていたのに、先生の授業を聞いて、歴史を勉強したいと言つて、見事に国立大学に合格したという。先生の熱意溢れる授業が、生徒の心を動かしたのである。

その後、若井会長による講評があり、松村先生の熱意の籠もった指導を高く評価し、また人物を中心に歴史を語ると言う事は、日本教師会に相応しい実践であることを強調されていた。

引き続き総会に移った。今年は特に大きな案件はなかったが、会としてのホームページが運用され始めたことが報告され、これからはさらに支部の活動などを取り込み、本会の活動や意見を広く発信していくことが了承さ

れた。支部活動では、どこも高齢化、若手教員の参加者が少ないことなど同じ悩みを抱えていることが話し合われた。今回愛知県教師会の参加が全くなかったので、事務局から今後の活動について協力を得られるのかどうか確認してみることもなった。

閉会式では、次期開催地である岐阜を代表して、岐阜県教育懇話会の橋本先生から挨拶があった。来年は今年と同じく八月第一週の土日に行い、実施方法としては、岐阜県教育懇話会だけではなく、出来れば愛知県教師会の支援も得て、東海エリアとして行いたいということであった。

以上、今回東京都教師会が主管した第五十八回教育研究大会の大略の報告である。

戦前の中学国語の教科書を読む (六)

「次の文章は、『現代国語読本 巻二』(八波則吉編著 昭和十年版)所収。学年では、現在の中学一年後期に当たる。句読点、送り仮名は原典通り。漢字は今回から原典通り正字にした。」

西行と天龍の渡し場 武者小路實篤

西行は初め北面の武士で、佐藤義清と云つた。弓は百發百中の腕を持ち、他の武藝にも秀で、武人として立派な有望な男だった。併し同時に歌人として又づぬけてゐた。

彼はなぜ武人を止めて僧侶になつたか。そ

れにはいろいろの原因が想像されるが、それはどれが本當か、彼のみが知つてゐるだらう。いろ／＼の事が重なつて、彼は出家しないではゐられなかつたのだらう。だが、出家しても好きな道は忘れられなかつた。それは歌道である。そして、彼はひとところに落着かず、常に旅をして歩いた。

さういふ彼が弟子の西往と靜かに旅をしてゐた。一日にどれくらゐ歩いたか、先を急ぐ旅ではないので、朝が来れば宿を出て、夕が来れば宿に泊つただらう。素より宿と云つても、百姓家の事もあつたらう、荒れた古寺の事もあつたらう、また同じ道を好む人の家の事もあつたらう。家のない時は野宿もしたらう。そして、疲れたら休み、休んでは又歩き、景色のいゝ處があれば、そこに心ゆくばかり落着きもしたらう。

かうして彼は天龍川の岸に着き、渡し舟に乗つて、西往とあたりの景色や旅の喜びを話してゐた。渡し舟は人がいつぱいになつたので、やつと動き出しさうになつた。

この時、「待て。」と大きな聲を揚げて呶鳴つて駆けつけた一人の武士があつた。船頭は、「御覽の通りいつぱいで御座いますから。」と、頭を下げて丁寧な断つた。「誰か代りにおろせばいゝぢやないか。」武士はかう言つた。だが誰も黙つてゐた。武士は怒つて、舟に乗つてゐる人を見廻した。そして西行に白羽の矢を立てた。「坊主、貴様おりろ。」西行は聞えないふりをしてゐた。すると、武士は

持つてゐた扇か何かで、西行の頭をいやといふ程ぶつた。ひどい音がし、西行の額から血がにじみ出した。西往は大騒動が起ると思つた。西行の強いことを知つてゐたから。併し、西行は黙つて立上つて、靜かに舟からおりた。西往も仕方がないので黙つて舟からおりたが、如何にも不平さうな顔をしてゐた。武士は痛快がつて、それ見ると言はないばかりに威張つて舟に乗つた。舟は岸を離れた。

西往は無念でたまらなさうに言つた。「なぜ、あなたは、あんな奴に、あんな目に逢つて、黙つていらつしやるのですか。口惜しいとはお思ひにならないのですか。」「思はない。」「どうしてですか。」「出家の身だ。」「いくら出家の身だつて、あなたなら、あんな男を三人や四人叩きつけることが出来になるのに。」「何といふ馬鹿な事を言ふのだ。」「あんまり口惜しいのです。みんな笑つてゐました。」西往はくやし泣きに泣き出した。西行は靜かに言つた。「私は、こんないゝ修業はないと思つてゐる。」「あなたは餘り卑怯です、臆病です。」「そんな馬鹿な事を言ふものでない。僧侶はこんな目に逢つても忍辱しなければならぬのだ。それが若し出来ないうやうなら、是からもうお前と一緒に連れて歩くことは出来ない。」「誰にでもお聞き下さい。私の言ふ方が本當ですから。あんな悪い奴はやつつけてやるのがいゝのです。」西行は黙つた。舟が来ると黙つて乗つた。「それなら是で別れるとしよう。」西往は勝手にしろといふ氣

がした。後悔したのは、それからずっと後だった。

西行はそれから一人で旅を続けた。彼はもう何も怖いものはないやうな気がした。

○東京都教師会は、第五十八回教育研究大会が東京で開催されたことを機に、「東京都教師会教育関連論集」を発行した。これは、本紙「東京の教育」復刊第一号から十号までに掲載された会員の論考を二十二篇まとめたものである。内容は次の通り。丸数字は復刊の号数。

「学問第一のこと」…佐藤健二①

再考 河村幹雄の教育論…佐藤健二②

日本神話における「高天原」の訓読の転訛に関する研究(1)…松浦明博③

日本神話における「高天原」の訓読の転訛に関する研究(2)…松浦明博④

ランドパワーの系譜(教材研究)…黒羽秀雄⑤

五十音図の不思議…佐藤健二⑥

学習指導要領における『聖徳太子』教科書記述問題の推移と問題点…空花正人⑦

教育界に忍び寄る中共政府の魔手…佐藤健二⑧

『碧雲荘』騒動記…藤井雅和①

『碧雲荘』保存運動の顛末…藤井雅和②

日本教師会第五十七回教育研究大会報告―記念講演を中心にして…佐藤健二③

教育研究大会報告―実践発表より…佐藤健二④

安西愛子伝…藤井雅和⑥

マツキンダーのある見解について…黒羽秀夫⑦

山鹿素行―三百三十三回忌の意味するところ…佐藤健二⑧

素行から松陰へ―土道の継承…佐藤健二⑨

二又隧道の教訓…藤井雅和⑩

高大連携歴史教育研究会の企み…佐藤健二⑪

一つの疑問から…藤井雅和⑫

千日回峰行の教へ…藤井雅和⑬

「感謝の教育」の推進…松浦明博⑭

□短信寸評□

テレビに、衛星写真で発見した一軒家に撮

影隊が訪ねてみる、といふ番組がある。山奥

であつたり、孤島であつたりの中に、全く周

囲から孤立して、一軒だけ存在する家屋であ

る。一般的に「一軒家」と「戸建て」は混

同して使はれることも多いが、ここでは本来

の一軒家である。

この番組では、さういふ人里離れた所の一軒家に、ひとりであつたり、夫婦二人だけ、またはせいぜい一家族で住んでゐたりといふことを取り上げてゐる。画面で見る限り、細い山道を辿つて行くといふ感じである。

テレビの番組であるので、どこまでが事実を伝へてゐるか、それは甚だ心許ないが、さうした傾向にあらうといふことは、容易に想像される。

また同番組では、衛星写真だけではなく麓の里などでの聞き込みでさうした住人を捜し

当てることもあるが、建物自体は何十戸もある集落なのに一人で住んでゐる、などといふこともある。即ち、他は空き家になつてゐるといふことだ。空き家問題はここでも顕著に見られる。

住人の殆どが高齢だが、ここを立ち退かない理由がいくつもある。住み慣れたところを離れることが出来ないといふのが主なやうだ。先祖代々の土地を捨てられないといふのは本當のことであらう。

また、集落に残された鎮守の祠などを守つておく必要があるから、などといふ健全な話を聞くと、胸に迫るものがある。

歸去來兮、といふ言葉がしきりに思ひ出される。

(5)

◎「東京の教育」への会員の皆様のご投稿をお待ちしています。

字数は三千字程度以内でお願いします。ただしこれより長いものは数次に分けて掲載することもできます。

仮名遣いは古典現代いづれかに統一して下さい。また、写真や図版はご相談ください。

送り先は題字下にあります。また、メールの送り先は次の通りです。

事務局アドレス(佐藤)

komasato@juno.ocn.ne.jp